

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです  
世の中はまったく公平だよ。未来を思えば公平だとわかる。

人間だけが未来に恋をする生き物です。明日のために今日があると考え、明るい明日のために今日を頑張れるのです。「毎日大変だね。今日も徹夜になるかい？でもな、若いときに苦労した努力が君の強い未来を創るんだ。世の中は公平だよ」リーダーの資質というのは、会社であれ家庭であれ、仲間に明るい未来への確信をもたらされる点にあると、船井先生を見て教えられました。船井社長を宝塚の自宅に送り、大阪・中之島のオフィスに戻ろうとしたとき、背中にそう語りかけられたのです。人間は、なぜわたしづかかりとか、私がこんなに頑張っているのにあの人は…、そう思ったときにスランプにおちいります。ツキが落ちると言ってもいいかもしれません。「公平ですか？」「世の中はまったく公平だよ。未来を思えば公平だとわかる」世の中で成功する人間は、努力をするという遺伝子が他の人とほんの少し違うだけなんだ。未来はね、努力という意識から利子によって変わってくるんだよ。もうすっかり深夜といってよい時間。閑静な住宅街に船井先生の声は染み入っていくようでした。かけがえのない“いま”を未来に投資する。それが頑張りであり努力です。努力をする環境をつくるのも、リーダーの役割でしょう。家庭のなかで、子供に明るい未来を語り、よし！そんな未来が待っているなら、いま頑張ってみようかと思わせるのも、親の役割だと確信します。明るい未来への確信。それを『夢』というのだと、いつも船井先生は語っていたのです。「描けるだけ大きな夢をもってごらん！大きな夢を描くため、人は勉強するんだぞ。いまの頑張りはね、自分の夢をふくらますためだ」未来を考えれば、すべては公平だ。確かにそうなのだと励まされ、深夜の国道171号線を走ったのは、入社3ヶ月目。もうすっかり夏の気配が漂っていたように思います。日本人は農耕民族です。農耕民族ゆえの発想が、日本には満ちていると思います。稻は植えてもすぐに収穫に至るわけではありません。草をとり、日照りに負けないよう水をやり、風水害、台風から稻を守り、秋の収穫の一瞬を夢見て、いま頑張るのです。ですから、明日のための努力をいとわない習性が育てられました。長期的視野で成果を育むという土壌も生まれたのです。明日を夢見て、いまの苦しさを耐えるという国民性も農耕民族ゆえの美風でしょう。日本という国の企業特性、年功序列も終身雇用も、そんな国民性、数十年の習俗から生まれたもんです。確かに農耕は、調和や和のなかで最大の生産性を上げうるのです。突出した一人の若い狩人によって収穫が左右される狩猟民族社会と違い、天候を長年の経験から読み、稻の声すら聞くことができる経験豊かな長老、村長を大切にする社会です。船井先生は、日本の社会のなかにこそ、世界の規範があると、事あるごとに口にしてきました。それは、未来に夢を馳せること。いま、自分がすべて大切だと考えるのではない。未来のためのいま、そう考えて長期的視野でいまやるべきことに全力で取り組みなさい、それこそが強い日本の源泉なのだとということです。成果を重視した能力給制度が、日本の企業経営にも急激に浸透しました。その結果、真面目さや協調性の大切さが脇にやられた時期がありました。しかし、今再び日本の社会がベースとなった経営の回帰が、世界中で感じられるようになっています。明日のために今日がある。船井幸雄先生の言葉には、いつも未来への夢と力が溢れています。

カッコ内を埋めてください

世の中で成功する人間は、( )をするという遺伝子が他の人とほんの少し違うだけなんだ。

未来はね、( )という( )から利子によって変わってくるんだよ。

日本人は何民族と言っていますか？

( )